

点検していますか？住宅用火災警報器

住宅用火災警報器は火災を感知するために常に作動しています。その寿命は10年とされています。古くなると部品の劣化や電池切れなどで、火災を感知できなかつたり、故障しやすくなります。「いざ」というそのときに、正常に作動するように、定期的に点検と作動確認を行い、設置後10年を目安に交換しましょう。



点検は、本体のボタンを押すか、付属の紐を引いて行います。
年に2回、春・秋の火災予防運動の時期に実施することをお勧めします。

正常な場合は？

正常をお知らせするメッセージ、または火災警報音が鳴ります。

ピピ、
ピーピーピー



ピピー 正常です
など



注) 警報音はメーカーや製品により異なります。

音が鳴らない場合は？

電池がきちんとセットされているか、ご確認ください。



● それでも鳴らない場合は、「電池切れ」か「機器本体の故障」です。取扱説明書をご覧ください。

警報器が鳴ったら！



ピーピーピー

火災の時

ピーピーピー 火事です

- 火元を確認する。
- 周りに大声で知らせる。
- 避難する。
- 119番通報する。
- 可能なら初期消火をする。



火災ではない時

ピーピーピー 火事です

- 火災でないことを確認する。
- 警報音を止める。警報器の押しボタンを押すか引きひもを引く。
- 室内換気で音が停止。

※ 予想される原因
くん煙式殺虫剤、ホコリや虫、調理時発生的大量の煙や水蒸気



電池切れの場合

ピッ 電池切れです

- 警報音を止める。警報器の押しボタンを押すか、引きひもを引く。
- 本体か電池を交換する。

※ 設置から10年以上経過している場合は、本体内部の電子部品が劣化して火災を感知しなくなることが考えられるため、本体の交換を推奨しています。



機器異常の場合

ピッピッピッ 故障です

- 警報音を止める。警報器の押しボタンを押すか、引きひもを引く。
- 本体を交換する。

